

銀杏学園 短期大学 同窓会だより

62年度

銀杏学園 20周年に寄せて



学長
上野直彦

銀杏学園短期大学は20歳となり成人式を迎える事になった。然し、その前身の熊本医学技術専門学校は而立の歳、即ち30才で、既に立派に一家をなしている。この間、二千人を越す卒業生が出て、重要な職務を遂行されつゝあり、誠に同慶の至である。

顧みれば、日本も戦後の混乱から漸く立直り、医療界でも検査業務が医師の手から専門の技師の手に移る事になった。移行措置としての第一回国家試験に備えて、化血研で講習会が開かれたが、更に熊本では初めて正式の養成校が発足したのが昭和34年であった。当時、カリキュラムも定まらぬまゝ、化血研本館二階で、教官も学生も一所懸命で、今猶学生諸君の姿がありありと浮ぶのである。

それから早くも30年経った。アメリカに追いつけ追い越せのスローガンの下に、日本は何時の間にか経済大国となった。日本の復興は世界の称賛的であったが、それが脅威となり羨望とさへなつた。敗戦によって戦争を放棄した為、多額の軍備費を節約出来たのが第一の理由である。資源に乏しい我国は、原材料を外国に仰ぎ、附加価値を高めた製品の輸出に頼らざるを得ないが、世界の平和が前提である。石油ショックやドルショック等にも耐えられたのも、日本人の素養と勤勉による品質管理(精度管理)の賜である。

今日、日本の医学も世界でも高い水準まで発展して参りました。これも専門の医学知識のみでなく、周辺の技術が大いに貢献しているからである。現に試験室に於ても、検査項目も増え、新しい術式が次々に導入

されている事は、皆さんが一番御承知の事と存じます。21世紀のヴィジョンとして色々取沙汰されていますが、ハイテク時代にあつて、検査業務も愈々複雑高度化するものは明らかです。

物事は常に変動する。将来どうなるかは誰にも判らない。人間にとってこれが不安の種であろう。検査業務が変化すると言つても、多くは過去の知識技術に基いている。従つて皆さんも現在担当する業務に忠実であると共に、絶えず関係する周辺の技術にも注目し、改善の目を持つ事が大切と考へる。

最後に、科学は進展して止まらないであろう。忘れ勝なのは心の問題である。殊に医療に従事する者にとつては人類愛の上に立つて最高の技術を駆使することが大切と思う。その根源は先づ身心共に健全でなければならぬ。同窓生諸君、何より健康に留意して御活躍下さい。同窓会の増々の発展を祈ります。

尚、皆さんの妹の看護科も5才となり、来年は小学に入る事になりました。お目出度うを申し上げます。

銀杏学園短期大学 20周年を迎えて



会長
藤井 勝

会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。ご多忙の日日を元気に過ごされていることと思います。

同窓会もお陰様で毎年、充実した組織へと成長しております。又技術講習会も皆様の協力によりまして第15回を重ねるにいたり、役員一同感謝いたしております。

銀杏学園短期大学も、今年で20周年をむかえます。月日の経つのは早いものです。振り返つてみますと、昭和34年京町の化血研内に衛生検査技師養成所として技師の養成施設をつくつていただきました。その当時

は、化血研本館(木造二階建)の二階に講義室、実習室があり、所長室(当時は竹屋先生)等がありました。一階は臨床検査科と事務室があり、上の実習室で騒いで、階下の方へ大分迷惑をかけたものでした。その後直ぐに、名称も熊本医学技術専門学校と改名されましたが、実習器具等が足りず、研究所内のワクチン製造等に使用される器具、顕微鏡等をお借りして実習させてもらつておりました。病院実習期間も4月から翌年1月までと永く、実習先の病院では職員と同等に扱われることもあり、「実習生だから」という感じがなく、家族的でした。

昭和43年には、化血研、熊本医学技術専門学校のご努力により銀杏学園短期大学となり、設備も立派なものが出来ました。早くも20年という月日が流れて、現在大学には、看護科が設けられ、5年目を迎えようとしております。全国には、このような大学がたくさん増設されて、新卒者の就職も以前と比べて大変きびしいものになっております。

前学長(六反田先生)の後継者として20周年を迎え上野先生も大学のためにそして我々卒業生のために大変がんばつておられます。これを機に同窓会として、大学の益々の発展と卒業生の将来のために、会員皆さんのご協力、ご支援をお願い申しあげ、20周年目を迎え、会を代表し心よりお祝いを申し上げます。

学園だより



学生部長
松崎 真人

卒業生諸氏には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この回もまた、学園便りを依頼されてしまいましたので学校の状況をご報告致しますが、次回からは、本学卒業生の教員に書いて貰おうと思つております。(それが当然であります)のでご期待頂きたいと存じます。

まず、昭和62年度から新しいカリキュラムに指定規則が変更になり、専門教科が基礎と臨床とに別れて

ます。そして一年生から生化学、病理学、微生物学などの実習が行われる様になっていきます。また、卒業生諸氏にお世話になつて居た臨床の病院実習が10週間になり、更に県外での実習が出来なくなつております(文部省指定)。この事は当然就職に影響を及ぼすと思ひますので、就職に關しましては卒業生諸氏のご協力をお願い致します。

国家試験については、昭和63年度から秋が廃止されると言う事と65年からは新しいカリキュラムに従つた国家試験になると言う事でありませう。従つて国家試験に合格していない人は、新カリキュラムによる試験になる前にこれを片付けておく必要があります。この2年、本学では3年生の留年がでておりますが、秋に於ける留年生の国家試験合格率と春に卒業した者として秋に受験した者の合格率とを比較すると、

61年 留年生	77・7%	卒業生	61・5%
62年 留年生	71・4%	卒業生	50・0%

となつております。これは同じ教科のみを1〜2週間で仕上げて行くやり方で勉強したことによると思つております。なお、国家試験を受けて居られる方は、元の担任と相談してみ下さい。

本学は、63年度から推薦制度の入学試験を実施することになりました。その理由は①本当に検査技師に成りたい人が欲しいと言うこと、②九州各県から広く学生を集めたいと言うことからです。

就職に關しては、昨年今年と件数、人数はやや増大していますが、核家族化が進み兄弟姉妹が少ない為、親も含めて学生自身親元から離れない傾向が強くなつて居ること就職を難しくしている状態です。今後、県外からの入学者を多くする様学生募集の為のPRにも力を入れる必要があると思ひます。なお職員が県外に於ける就職先の開拓をしますので、県外で活躍していただける卒業生諸氏もご協力頂きたいと存じます。

昭和65年度開講を目指し、看護科(3年課程)設置を計画して、現在準備中です。

以上が現況です。切れ切れの内容になりましたが、ご勘弁頂きたいと存じます。将来の事に成りますが、衛生技術科、2つの看護科とも一カ所にまとめる必要があると思ひます。その節には、母校のためにご協力をお願いいたします。

第15回

银杏学園短期大学同窓会 技術講習会の御案内

今回で、はや15回目を迎える技術講習会を、例年どおり来年1月23日(土)・24日(日)に、上通り同仁堂(スタジオライブ)にて実施を予定しています。

学術部としては、より多くの同窓生の方々に受講してもらうためにと、第13回講習会より文化講演を行い、少しでも新鮮なものとし、学術面では各臓器と検査をシリーズで取り上げて来ていますが、一つの節目に当たる今回は、文化講演としては、「星空へのロマン」と題して熊本県民天文台

長の宮本幸男先生に、ハレー彗星、超新星あるいは皆既日食の様子などをお話し頂き、広大無限の大自然・大宇宙のただ中へ、しばしの間さまよい入り、人と宇宙について思いを巡らして頂きたいと考えています。

教育講演での「臓器と検査シリーズ」はおもに臓器を取り上げ、「脾疾患と臨床検査」とのメインテーマのもとに3題を予定しています。基礎的なものとしては、「脾臓の生理と病理」と題して熊本大学医学部の猪山賢一先生に、臨床的なものとしては、激しい腹痛を伴って発症してくる疾患群である急性腹症を取り上げ、「急性腹症と救急医療」と題して熊本市市民病院消化器科医長の竹川博之先生に御講義をお願いしています。

また、脾臓機能と深いつながりのある糖尿病を「糖尿病の病態と臨床検査」と題して陣内内科病院院長の陣内富男先生に御講演をお願い致しています。初日の1月23日には午後6時半より懇親会も予定していますので、多数の同窓生のご参加をお願い致します。

会計監査報告書

銀大同窓会昭和61年度会計収支明細及び必要書類(領収書を含む)を監査し、異常なき事を認めます。

昭和62年11月12日

银杏学園短期大学同窓会会計監査

熊大附属病院病理部 大塚 邦子
熊本中央病院検査科 江藤 博三

会計より

金額は目標額が一万円ですから納入率は二割にも満たないことになり、六二年度からはこの終身会費で同窓会活動を賄っていかねばならないこと、六二年度以降一般会員からの会費納入がなくなる

皆様お元気のことと思います。毎年この時期になると、同窓会役員は一月の講習会及び総会の準備であわただしく立ち回ることにあります。本来の仕事は縫っての仕事です。至らぬ所もあるかと存じますが、力一杯遂行してまいりますので皆様のご協力をお願い致します。

さて、会計の報告及びお願いを致します。六二年度決算報告は別表を御参照ください。毎年同じ傾向ですが特記事項として会費の納入高が急増しています。これは年会費が終身会費制になり、金額が増加した結果(千五百円から五千円)であり必ずしも納入率の大幅な増加ではありません。(実際わずかに納入率は増加している。毎年納入されていた会員に加え若干の会員がこの機会に納められたようです)終身会費ですから、六一年度五千円納められた方はこれで義務は終わりました。速やかなご協力まことに感謝致します。ただこの金額は目標額が一万円ですから納入率は二割にも満たないことになり、六二年度からはこの終身会費で同窓会活動を賄っていかねばならないこと、六二年度以降一般会員からの会費納入がなくなる

昭和61年度決算報告 (単位:円)

〔収 入〕	60年度繰越金	2,368,804
	会費(入会金)	410,000
	会費	1,501,620
	雑収入	2,070
	合計	4,282,494
〔支 出〕	会誌発行費	1,466,530
	講習会費	140,830
	人件費	95,000
	事務消耗品費	83,322
	通信費	54,600
	会議費	8,274
	雑費	25,200
	合計	1,873,756

4,282,494 - 1,873,756 = 2,408,738

昭和62年度へ繰越

締切	昭和六十三年三月三十一日
金額	終身会費 五千円
納入方法	①振込用紙(同封してあります) ②銀行振込 ③郵送 800熊本市清水町大窪八一九 银杏短大同窓会事務局宛 ③その他 どんな方法でも結構です。

目減りするのみであることを考えるとなんらかの施策が必要になります。そういうわけで、終身会費納入は一応、六二年度三月で締め切られましたが、引き続き終身会費納入を受け付けることに致します。どうか御協力ををお願い致します。

九州屈指の私立医療短大 银杏学園短期大学

深い教養と人間性に富む医療技術者を育成する短大

学長 医学博士 上野直彦



- 衛生技術科(男女).....(3年課程)
- 衛生技術科(男女).....(3年課程) (臨床検査技師育成)
- 入試科目
 - ・推薦生...現代国語(作文を含む)・理科Ⅰ・面接・健康診断
 - ・一般生...数学Ⅰ・Ⅱ, 英語Ⅰ・Ⅱ, 物理・生物・化学のうち1科目, 面接, 健康診断
- 特 典 臨床検査技師国試受験資格取得
- 就 職 医療機関・研究所など就職卒業後も就職
- 看護科(男女).....(2年課程)
- 看護婦(士)育成
- 入試科目
 - ・推薦生...現代国語(作文を含む)・看護一般, 面接・健康診断
 - ・一般生...基礎学力試験(現代国語・数Ⅰ・英Ⅰ) 看護基礎医学, 看護一般, 面接, 健康診断

■入試日程

	募集人員	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期日
衛生技術科	推薦生	62年11月19日	62年12月10日	62年12月17日	62年12月25日
	一般生	62年11月29日			
	一般生	63年1月5日	63年2月2日	63年2月10日	63年2月18日
	一般生	63年1月24日			
看護科	推薦生	62年11月19日	62年12月10日	62年12月17日	62年12月25日
一般生	62年11月29日				
	一般生	63年1月5日	63年2月2日	63年2月10日	63年2月18日
	一般生	63年1月24日			

银杏学園短期大学

〒860 熊本市清水町大窪819番地
電話 (096) 344-7611代表